

牧野富太郎がアリマウマノスズクサを発見したのは 1936年6月21日である

兵庫県立人と自然の博物館 鈴木 武

はじめに

アリマウマノスズクサ *Aristolochia shimadae* Hayata (ウマノスズクサ科) は兵庫県の六甲山地、九州北部、西南諸島南部、台湾に分布するつる植物である (菅原・東馬 2015)。学名として *Aristolochia onei* Franch. et Sav. ex Koidz., 和名としてホソバウマノスズクサが使われたりしてきた。オオバウマノスズクサと関係も含めて、分類群の認識の歴史は渡邊-東馬・大井-東馬 (2016) に詳しくあるので参照にされたい。



図1. アリマウマノスズクサ. 白岩 (1991) の表紙.

白岩 (1991) は六甲山でのアリマウマノスズクサを詳細に調べており (図1), 兵庫県六甲山地を特徴づける植物であり, 和名のアリマウマノスズクサは有馬郡で見つかったことに由来する. その名付け親は牧野富太郎である. 牧野 (1940) は, 牧野日本植物図鑑でオオバウマノスズクサの項で, 「アリマウマノスズクサ *A. arimensis* Makino」を示し, 舷部全面が黒紫色を呈するとしているが, 基準標本や記載がなく, 裸名として扱われる. しかしながら, 和名としてのアリマウマノスズクサは現在もお使われている.

牧野富太郎は, 1916 (大正6) 年に池長から援助を受けて, 標本が池長植物研究所から東京の牧野の元に返還される 1941 (昭和16) 年までの25年間に頻繁に

神戸を訪れている (山本・田中 2004, 2005). 一体いつ, どこでアリマウマノスズクサの存在に気づいたのであるのか? 戦前の地方博物学会誌や牧野らの採集の標本により, 1936 (昭和11) 年6月21日に有馬郡五社駅付近 (現在の神戸市北区神戸電鉄五社駅) で, 牧野がアリマウマノスズクサを新種として見出したというのが妥当である.

1. 山鳥 (1941) は 1937年6月8日としている

山鳥吉五郎 (1881-1946) は御影師範の教員のうち, 西宮高等女学校 (現在の市立西宮高等学校) の校長を20年以上勤めた博物学者で, 関西において牧野富太郎と親交が深かった人物のひとりである (図2). 牧野 (1941) は「六甲山に登る時はなんだか山鳥吉五郎君と一緒にないと気が済まない感じがするので, 従って同君と相携え同行することが最も多い」と述べている.



図2. 牧野と山鳥. 兵庫県武田尾温泉 (1939年6月18日). 牧野の右隣が山鳥吉五郎. 川崎家所蔵.

山鳥 (1941) は牧野が新種アリマウマノスズクサに言及した経緯について下記のように示している.

『・・昭和一二年六月七日に兵庫県博物学会 (兵庫県中等教育博物学会とは別の会にして本年解散したもの)

の主催で牧野博士指導の下に六甲山の北方なる有馬郡五社地方にて採集会が催された。此の日は六甲越有馬電鉄株式会社の主催で別な採集会があって余は其の講師を依頼されていたので、博物学会の催には出席できなかった。然るに此の日余は六甲山頂の六甲高山植物園の東方で同園に曲がる処の茶屋の前で「おほぼうまのすずくさ」を採集した。処が葉が稍薄くて花の長いので花の長き事に重きを置いて余は別種のと鑑定し翌日本校の井上教諭〔注：井上貞三郎、山鳥とともに牧野の採集会に多く参加〕に「うまのすずくさ」の新種を発見したことを語った。処が前日の博物学会の催しに参加した同教諭は之は昨日牧野先生が新種として、「ありまうまのすずくさ」と新しく命名されたものであると語った。丁度同日牧野先生は五社村〔注：五社村という行政単位はかつても存在せず、有野村五社駅周辺の意であろう〕で発見し、余は六甲山頂で採集したものである。・・・』(図3)。



図3. 神戸電鉄五社駅。2024年5月。牧野が来訪した1936年6月と大きく構造は変わっていない。

兵庫県中等教育博物学会誌は国立国会図書館をはじめ、全国の図書館での収蔵がない一方、アリマウマノスズクサについて研究して言及した白岩(1991)に全文が引用されている。また白岩(2008)の「牧野富太郎と神戸」p133でやや遠回しの表現であるが、ほぼ踏襲しており、1937年6月8日が、牧野のアリマウマノスズクサ発見日と信じられていた。

2. 山本・田中(2004, 2005)でのアリマウマノスズクサの初出は1936年8月16日

山本・田中(2004, 2005)の「牧野富太郎博士植物採集行動録」の明治・大正編および昭和編は関西での情報では補足すべき点が多いが、牧野の行動や交流を理解す

るためには最重要の文献である。この冊子で、アリマウマノスズクサが初出するのは、1936年8月16日である。「朝川崎正氏来訪、次いで山鳥氏井上氏来訪 相携えて自動車にて有馬路方面五社停留場に行き、有野村の山地にアリマウマノスズクサの果実を採り、帰宿す。夕刻三氏辞去す。」とある。川崎正(正悦)は灘中学校の博物学教諭であり、大正時の横浜植物学会のころから牧野との交流が深かった人物である。このときは、山鳥・井上・川崎が同行しており、山鳥(1941)の1937年6月8日がアリマウマノスズクサの発見日とするのはおかしいことになる。

次にアリマウマノスズクサが現れるのは、1938年5月8日で、大阪の薬種商で山野草愛好家の日下久悦と従兄弟の資産家でラン栽培に詳しい覺道凱三と3人で同じく五社駅で採集している。五社駅周辺の個体を基準としてアリマウマノスズクサを考えていたのかもしれない。白岩(2008)には山本・田中(2004, 2005)の記述が多数引用されており、1938年5月8日の件を引用している。当然1936年8月16日の記述も読んでいたはずであるが、実直な教育者であった山鳥の記述を信頼したのであろう。また、山鳥(1941)は明治40年ころにはアリマウマノスズクサの存在には気付いており、牧野にその存在を示していた可能性がある。発見者を牧野に譲った感もあり、白岩は山鳥(1941)のいう同日発見説をとったのであろう。

3. 兵庫県博物学会会誌に1936年6月21日に新種発見とあった。

前節の1936年8月16日以前に牧野がアリマウマノスズクサを発見する可能性があるのはいつか? 山本・田中(2004, 2005)、山鳥(1941)からして、有野村五社駅周辺で採集が想像できる。山本・田中(2004, 2005)を検索すると、前節にあげた二日以外に、「五社」が現れるのは1936年6月21日である。「有馬自然科学研究会 並に兵庫県博物学会神戸支部採集会。朝八時十六分湊川発車、朝川崎氏、西村まで迎え来る。相伴って出発 五社 空欄 駅下車 附近入山地を採集し(空欄) 駅より上車 夕刻帰神 直に大阪行き、日下氏宅にて採品を始末す」。

兵庫県博物学会は戦前に存在し、後継団体は兵庫県生物学会であるが、その会誌は国立国会図書館などにもないが、幸いして、著者の所属する人と自然の博物館の図書室では、イネ科の研究者藤本義昭の蔵書の中にあっ

た。兵庫県博物学会神戸支部（1936）「裏六甲植物採集新種アリマウマノズクサを発見す」に発見の経緯が書かれていた（図4）。「午前九時五社駅集合。会員が集合前の時間を利用して採集した、ウマノズクサが電車から降りたばかりの牧野先生の目にとまり、新しい種類だ *Aristolochia arimaensis* とつけたら良いと迄仰ってもっと沢山採る様にと御持参の採集鉢を取り出して渡される始末に、さい先よしと参加者一同にわかに活気立つ。」さらには兵庫県博物学会（1936）の重要日誌には「・・・博士がアリマウマノズクサと命名されたので参加者の喜びの一方ならず覚えて万歳を三唱した。」とまである。これらの文書記録から牧野富太郎が新種アリマウマノズクサを発見したのは1936年6月21日、有馬郡有野村五社駅（図3）周辺とするのが妥当である。



図4. 裏六甲採集 新種アリマウマノズクサを発見す。兵庫県博物学会会誌 12: 70-71 の記事全文。

4. 腊葉標本などによる裏付け

さらに、前節を裏付けるアリマウマノズクサの腊葉標本や情報が得られてきている。

1) 岡博採集のアリマウマノズクサ標本（図5, 6）

2023年はNHKの朝ドラ「らんまん」を受けて、牧野富太郎に関する展示が各地で開かれた。その中の一つの六甲高山植物園に、奈良県在住の馬場郁夫氏が、牧野富太郎が最初にアリマウマノズクサを見つけたときの標本を持っているという連絡があった。六甲高山植物園の三津山さんからの話を受けて、私も同席することとした。

馬場さん所有の標本は亡父、岡博の採集品であった。岡は現在の神戸市北区宅原の出身で、御影師範学校卒業後は奈良県の小学校の教員をされていた。アリマウマノズクサの標本を見せられて、牧野富太郎がアリマウマ

ノズクサを発見したときの標本と何度も聞いていたが、六甲高山植物園の日付は父岡博の日付と異なっており、照会したとのこと。このときの六甲高山植物園の展示では、山鳥（1941）の昭和12年6月8日を採用していた。岡の標本のラベルには「ありまうまのすずくさ 五社 五社にて発見ノ新種なり」「閏11.6.21 岡」とある。まさに昭和11年6月21日の標本が存在し、場所と日付の情報がより堅固になったわけである（図5, 6）。



図5. 岡博が採集したアリマウマノズクサ標本。



図6. 図5のアリマウマノズクサ標本のラベル。昭和11年6月21日に採集したこと、アリマウマノズクサが新種であることが記述されている。

馬場さんはほかにも多数の岡標本を持ち込まれ、最終的には人と自然の博物館に寄贈いただくということでお預かりした。その中には、昭和11年9月19-20日に兵庫県博物学会主催で牧野を講師とする採集会の標本もあり、このときの集合写真を馬場氏に見ていただくと、図7が父、岡博と思われることのことであった。



図7. 岡博. 1936年9月19日 兵庫県三田市永澤寺での採集会集合写真より (川崎家所蔵).

2) 細見末雄のアリマウマノスズクサ標本

細見末雄 (1908-1998) (図8) は兵庫県氷上郡氷上町 (現在の丹波市) 出身で、御影師範卒業後、地元の小中学校の教員を勤めながら、「丹波草木誌」など地域植物誌をまとめ上げた。京大の小泉源一、田代善太郎との交流も深く、当館の岩槻邦男名誉館長の国民学校四年の担任であったとも聞く。二万五千点の植物標本は人と自然の博物館に寄贈されている。



図8. 細見末雄. 1939年8月19日 兵庫県丹波市氷上町浅山不動尊での採集会集合写真より (川崎家所蔵).

その標本の中に「ホソバウマノスズクサ (アリマウマノスズクサ) 裏六甲昭和11年6月21日 細見 5344」がある (図9)。「裏六甲」は六甲山地の北麓を指す。細見 (1993) は以下の記述からはこの標本は五社駅周辺でなく、六甲登山駅 (現在の神鉄六甲駅周辺) と推定できる。

細見 (1993) はこの日の状況を書いている。「昭和11年6月21日に牧野博士指導の裏六甲採集会が催され、神有電車 (現神戸電鉄) 六甲山登山口で待っていると先生がお越しになった。[中略] この日、博士は中腹でアリマウ

マノスズクサの大きなツルを発見され、一時間以上をかけて数十枚の標本を造られた。普通の茎葉花の揃ったものだけでなく、太い茎ばかり、葉ばかり、花も同じで、博士の採集態度には全く感心した。そうしてこれにアリマウマノスズクサと和名をつけられた。」

なおこの日に細見は買ったばかりの牧野著「日本植物図説集」を持参し、牧野にペンで揮毫してもらっている (図10)。



図9. 細見末雄が採集したアリマウマノスズクサ標本。昭和11年6月21日の採集で、ホソバウマノスズクサ (アリマウマノスズクサ) と書かれている。

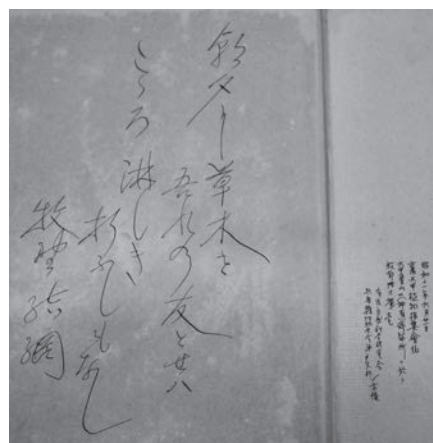


図10. 細見末雄が牧野に書いてもらった牧野のペン書きの揮毫 牧野著「日本植物図説集」の表紙裏に書かれている (丹波市立中央図書館所蔵)。

3) 牧野標本館にある牧野採集のアリマウマノスズクサ標本

牧野が1936年6月21日採集した標本は存在するのだろうか? 東京都立大牧野標本館に依頼して、牧野が採集したアリマウマノスズクサの標本のうち、産地が有馬、五社などの採集地名がある標本3枚の画像を提供いただいた。

MAK12618 (図11) は1936年8月16日採集で、(山本・

田中 2005) でのアリマウマノスズクサの初出と一致し、産地も「摂津，有野村」であり，五社駅周辺であり，「果実を採り」にも合う。同じ産地の MAK12617 (図 12) は 1938 年 5 月 17 日採集で，山本・田中 (2005) にある日下・覚道と同行した五社駅でのものであろう。



図 11. 牧野採集のアリマウマノスズクサ標本 MAK12618. 東京都立大牧野標本館所蔵.



図 12. 牧野採集のアリマウマノスズクサ標本 MAK12617. 東京都立大牧野標本館所蔵.

残る 1 枚は 1936 年 5 月摂津有馬とある MAK241624 (図 13) である。産地・採集日が同じ MAK241625 もある。山本・田中 (2005) から 1936 年 5 月に牧野が神戸周辺に来た可能性があるのは、「5 月 2 日 大阪—神戸—大阪—汽車」であるが，5 月 2 日はアリマウマノスズクサの開花にはかなり早めである。当時は有馬町をはじめ，有馬郡有野町などは神戸市ではない。同年 4 月 27 日から大阪，伊丹などで連日活動しているが，「摂津有馬」にあたる有馬郡 (有野町，有馬町など) に行った形

跡はない。同年 6 月でも「摂津有馬」に行っているのは 6 月 21 日のみである。MAK241624 のアリマウマノスズクサの採集日は 1931 年 6 月 21 日の誤記である可能性が高く，この標本および MAK241625 は，牧野が五社駅周辺でアリマウマノスズクサを新種として言い出したときに採集した標本と判断する。



図 13. 牧野採集のアリマウマノスズクサ標本 MAK241624. 東京都立大牧野標本館所蔵.

おわりに

兵庫県博物学会会誌の記録，岡・細見採集の標本から，牧野がアリマウマノスズクサを言いはじめたのは，1936 年 6 月 21 日である。東京都立大牧野標本館にある MAK241624 がこの日の採集品であると推定した。山鳥 (1941) の 1937 年 6 月 8 日は誤記であらう。

本報をまとめるにあたっては，兵庫県立人と自然の博物館，東京都立大学牧野標本館の標本が重要な根拠になった。両標本庫に感謝する。牧野標本館からは標本画像を提供いただいた。また岡博標本を長らく保管してきた馬場郁夫氏にも御礼を申し上げたい。細見末雄の情報に関しては，善積卓子氏，細見茂樹氏および丹波市立中央図書館にお世話になった。なお本報をまとめるよう勧めてくれた牧野植物園の各位にも感謝いたします。

引用文献

- 細見末男. 1993. 私の植物採集. 兵庫の植物 3: 3-8.
 兵庫県博物学会. 1936. 本会重要日誌 (昭和 11 年 4-6 月).
 兵庫県博物学会 会誌 12: 116-117.
 兵庫県博物学会神戸支部. 1936. 裏六甲採集 新種アリマウマノスズクサを発見す. 兵庫県博物学会会誌 12: 70-71.

- 牧野富太郎. 1940. おほぼうまのすずくさ. 牧野日本植物図鑑. 1237 pp. 北隆館. 東京.
- 牧野富太郎. 1941. 山鳥君と私. 兵庫県中等教育博物学会誌 7: 35-36.
- 白岩卓巳. 1991. アリマウマノスズクサー六甲山を特徴づける不思議な植物. 128 pp. 神戸市総合教育センター. 神戸.
- 白岩卓巳. 2008. 牧野富太郎と神戸. 206 pp. 神戸新聞総合出版センター. 神戸.
- 菅原敬, 東馬哲雄. 2015. ウマノスズクサ科. *In*: 大橋広好ほか(編)「日本の野生植物1」. pp. 57-70. 平凡社. 東京.
- 山鳥吉五郎. 1941. ありまうまのすずくさ *Aristolochia Kaempferi* var. *arimense* Makino. の話. 兵庫県中等教育博物学会誌 7: 401-404.
- 山本正江・田中伸幸. 2004. 牧野富太郎博士植物採集行動録. 明治・大正篇. 200 pp. 高知県立牧野植物園. 高知.
- 山本正江・田中伸幸. 2005. 牧野富太郎博士植物採集行動録. 昭和篇. 208 pp. 高知県立牧野植物園. 高知.
- 渡邊 - 東馬加奈, 大井 - 東馬哲雄. 2016. 日本産オオバウマノスズクサ群の分類学史およびオオバウマノスズクサとアリマウマノスズクサの混同について. 分類 16(2): 131-151.